

様式第 1 0

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
箕面市域	箕面市	H27. 4. 1～R3. 3. 31	H27. 4. 1～R3. 3. 31

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成25年度)	目 標 (令和3年度) A	実 績 (令和3年度) B	実績 /目標
排出量	事業系 総排出量	t	t	t %
	1 事業所当たりの排出量	t	t	t %
	生活系 総排出量	26,627 t	27,144 t	27,430 t 101.1%
	1 人当たりの排出量	198kg/人	197kg/人	188kg/人 95.4%
合 計 事業系生活系総排出量合計	t	t	t %	%
再生利用量	直接資源化量	0 t	0 t	219 t —
	総資源化量	6,667 t	9,191 t	5,578 t 60.7%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh
最終処分量	埋立最終処分量	4,778 t	4,138 t	4,280 t 103.4%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (令和 年度)	目 標 (令和 年度) A	実 績 (令和 年度) B	実績 /目標
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

■排出量

生活系総排出量は令和3年度目標 27,144t に対し、令和3年度実績 27,430t となり目標を達成できなかった。

1人当たりのごみ排出量は減少したが、人口増加に伴い排出量が増加したことに加えて、外出自粛により在宅時間が長くなったことで、自宅の片付けをする機会が増加し、不燃ごみや大型ごみの排出量が増加したと考えられる。

■再生利用量

総資源化量は令和3年度目標 9,191t に対し、令和3年度実績 5,578t となり目標を達成できなかった。

新聞、雑誌、ダイレクトメール等の電子媒体が普及したことにより紙類の排出量そのものが減少し、集団回収量が減少したことによるものと考えられる。

■最終処分量

令和3年度目標 4,138t に対し、令和3年度実績 4,280t となり目標を達成できなかった。

新型コロナウイルス感染症の拡大により事業系ごみの排出量は大きく減少したが、人口増加に伴い生活系ごみの排出量が増加したこと、さらに、不燃ごみや大型ごみの排出割合が増加したこともあり、最終処分量が増加したと考えられる。

3 目標達成に向けた方策

■排出量

生活系総排出量の増加の原因は、人口増による排出量増加に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛により在宅時間が長くなったことで自宅の片付けをする機会も増加し、不燃ごみ・大型ごみの排出割合が増加したことによるものと考えられる。そのため、小型家電リサイクルを活用したごみの減量、ごみ処理施設内の啓発展示を活用したごみ減量化への意識付け等を推進する。また、食品ロス削減に取り組むことで燃えるごみのさらなる減量推進に努める。

■再生利用量

社会情勢の変化により新聞・雑誌等の電子媒体化が進み、紙などの資源化できるものの排出量が減少しているが、集団回収実施団体への支援を継続するとともに、排出されたものの中から可能な限り資源物を選別することで、再生利用率の向上に努める。

■最終処分量

最終処分量の増加は人口増加に伴い生活系ごみの排出量が増加したこと、及び、不燃ごみや大型ごみの排出割合が増加したことが要因と考えられる。排出量削減のための上記方策を進めると同時に、再生利用率の向上に努めることで、最終処分量の削減を推進する。

(都道府県知事の所見)

新型コロナの影響等により、目標未達成の指標はあるが、今後もしサイクルの推進やごみの減量化を図られたい。